

令和2年度（2020年度）

第3回吹田市生活困窮世帯の子どもの学習支援教室運営業務委託事業者選定審査会議事録
（概要）

- 1 日 時 令和3年2月12日（金）午前9時30分から午後2時40分まで
- 2 場 所 メイシアター 第1会議室
- 3 出席委員 福祉部長、児童部長、教育監、地域教育部青少年室長、福祉事務所長
- 4 内 容 吹田市生活困窮世帯の子どもの学習支援教室運営業務委託事業者の選考
- 5 委員からの質問とそれに対する回答

(1) A法人

質問	回答
他市での実績において、長期欠席者や配慮が必要な児童への対応のエピソードは何かありますか。	<p>利用者にひとり親家庭の不登校児童がいて、学習支援教室も学校も行けない状態でした。母親の帰りは毎晩遅く、児童も遅くまでゲームをして、生活リズムが乱れていました。生活保護のケースワーカーからも弊社へ相談がありました。</p> <p>まずは登校支援として、朝7時30分に生徒宅へ行き学校へ連れて行きました。その中で登校状況も改善し、学習支援教室への出席も再開して、保護者の理解も得られました。</p> <p>また、不登校児支援として、近隣の弊社教室に居場所のような形で、日中に通所受け入れを行っています。</p> <p>また、出席すると保護者へリアルタイムでメール通知が届くシステムを導入しています。無断欠席の場合は、30分を経過すると保護者へ連絡を取っています。その中で不可解な点があったり虐待等の可能性が高い場合は自治体と情報共有をしています。</p>

質問	回答
<p>学習支援員の確保はどのようにしていますか。</p> <p>提案資料には、生徒1人あたり講師は、1～2名配置とありますが、本当に可能ですか。</p>	<p>4,505名の講師登録があり、その中から研修のうえ人選をしています。講師の質については、生徒から毎回アンケートを集め、随時本部で管理しており、場合によっては講師の変更もその都度行っています。講師については提案通り人数配置を行います。</p>
<p>学習支援員の研修の時期と内容を教えてください。</p>	<p>初期研修を全員に行い、7月、10月、1月に全国の定例研修を受講してもらいます。また、実際の事例について検討する実践研修も行っています。</p>
<p>本市の東・西教室の出席率が低い点について、何が課題だと思いますか。</p>	<p>まず、どうして生徒が来ないのか、理由を考えます。固定の時間に参加が難しいのか、会場の場所が遠いのか、様々な状況があると思います。東・西教室については場所の問題と、学習支援教室に行きたいと思っている生徒が少ないのが原因ではないでしょうか。また、学習支援員との相性もあると思います。生徒本人にとって教室に行く目的ができれば、出席率は上がると思います。生徒や家庭の変化に気付いて行動していれば、現状のような出席率にはなっていなかったのではと思います。弊社であれば、学習支援員、統括責任者、アンケート等から生徒の変化に気づき対応していきます。また、時間や場所の問題があれば、別途、弊社教室を利用できるようにしていきます。</p>
<p>固定の時間や場所が困難であれば、別途、貴社の教室を利用できるとの提案ですが、そういった融通はできるのですか。</p>	<p>不登校児も含めて、弊社の吹田市内2教室を月曜日から土曜日まで利用してもらえる体制にする予定です。</p>

質問	回答
教室の学習支援員同士は、生徒の変化等の気づきについて、どのように組織的に情報共有し、対応しているのですか。	月に1回は事業推進会議を開催しています。また、毎回の生徒アンケートはリアルタイムで本部へ共有され、翌日には現場に反映されます。また、教室管理者には教室の開催ごとに報告があり、常に内容を共有できています。

(2) B法人

質問	回答
教室管理者は福祉的な強みがある方が配置されるとの提案ですが、まだ確保できていない教室には、貴社の理念を理解した方を配置できますか。	雇用後に職員として育成しますが、求人においても、一般の他にもNPO法人等のつながりの中で条件が合えば採用を考えています。
学習科目は、原則英語・数学とありますが、5科目にも対応できますか。	英語と数学の2科目を原則としています。まずは2科目を中心に行いますが、生徒の希望があった時や、定期テスト対策時、受験対策時においては、他の教科も行っています。
学習支援員の確保はどのようにしていますか。	大学生のボランティアを116名登録しており、学習支援員はすぐに集まります。登録ボランティアは意欲的な学生が多いです。
組織が大きくなると、理念等が末端まで伝わりにくくなると思いますが、貴社ではどのように伝えていきますか。	提案書のとおり、基礎研修、学習支援研修、さらに、実際に子どもと関わってもらう実地研修等により、伝えていきます。また、毎回の教室終了後には振り返りを行なっています。
活動開始までは、どれくらいの時間、どの時期に研修を行っていますか。	基礎研修が約1時間、学習研修が1時間30分、どちらも大学生が入れば、随時行います。受託が決まれば、3月末から4月にかけて行います。

質問	回答
定期研修や人権研修はどれくらいの時間、行っていますか。	2～3時間行っています。
大学生の学習支援員を採用するにあたり、重視している点や面接のポイントは何かですか。	登録後に実際に会って適性を確認しています。基本的には一度会っただけで採用の可否を決めていません。コミュニケーション力や特性等を見極めて判断するため、これまでに、聴覚障害の方や基本的な時間が守れない方等には、活動を離れてもらった例があります。
提案書にある中退予防は中学校卒業後のサポートのことですか。 中退予防のサポートは、子どもから連絡があった時だけですか。	その通りです。公式ラインアカウントで繋がることにより、生徒が高校で何かあった時、相談できる環境を作ります。また、レポート作成等のサポートを行うこともできると考えています。 状況確認のため、年に1回は連絡します。
提案書にある社会性、協調性を育む行事とはどんな内容を考えていますか。	季節のイベントや、クリスマスパーティー等、子どもと一緒に考える内容を取り入れています。
使用する教材のフォレストについて、途中からでも学べますか。	テスト前は学校の教材を使って対策を行いますが、それ以外はフォレストを使っています。学習の進捗状況に合わせて、積み上げながら学べます。

(3) C法人

質問	回答
これまでに生活困窮者向けの事業実績はありますか。	生活困窮者向けでは、大阪市浪速区で事業を行った実績があります。また、大阪市では塾代助成事業があり、弊社も登録していますが、利用者は同じような世帯であると思います。

質問	回答
福祉的な観点からアピールはありますか。	スタッフに福祉専門員を配置しています。福祉活動を行う専門員を6名配置し、家庭訪問、保護者や子どもとの面談を行う予定です。
教室の支援員とは別に、福祉専門員を配置するのですか	別に配置します。
学習支援員と福祉専門員の業務は切り分けられているのですか。	専門員は、保育・介護・医療等の専門的な対応を求められた際に、組織として支援をしてもらう予定です。
学習支援員と福祉専門員の情報共有はどのように図るのですか。	定期的に会議や研修を行って、情報共有を図ります。
学習意欲が低い子どもが参加する可能性があるが、意欲喚起の方法を何か考えていますか。	今まで培ってきたコミュニケーション力を活かして、教室に来た子どもへの声掛けから行っていきたいと考えています。
学習支援員は大学生と職員等のどちらを中心に考えているのですか。	大学生、職員等のどちらも就いていただく予定です。
教材は何を使用するのですか。	子どもの学習レベルに応じた教材を使用します。基本的には学校の副教材の利用を考えています。
提案書8ページのプロデュースレコードは誰が記載するのですか。	当初は担当講師が記入し、子どもに確認をすることになりますが、最終的には子ども自身で書くことを目標としています。
提案書10ページの卒業生支援は、利用者の欠席者を前提としたものなのですか。	利用者の欠席を前提としたものではなく、あらかじめ必要な受入体制を用意して、柔軟に対応していきたいと考えています。

質問	回答
学習支援員の確保はどのように行うのですか。	放課後育成事業に登録をしているスタッフや、大学のキャリアセンターに協力を求めて、採用面接に合格をした人を採用したいと考えています。
子どもの学習意欲を高める具体例等がありますか。	保護者、子どもとそれぞれ面談を行い、双方から見た状況を把握し、アセスメントを大切にしていきます。最初の5分間は心のリセット時間を設けて出席率の上昇につながった例もあります。
中退率の減少に向けた取組例は、他に何かありますか。	グループ企業への会社訪問、企業見学や大学見学を検討しています。

(4) D 法人

質問	回答
教室に来られない子どもたちを来させた実例を教えてください。また、どのようなことに注意して子どもたちに声をかけていますか。	子どもたち、及び保護者向けに教室で定期的にイベントを開催し、その場で参加するよう働きかけています。声かけを行う際は、学校や市の担当者等と連携を取り各家庭の実情を情報共有したうえで、その子に合った対応を心掛けています。
学習支援員として関西大学の学生ボランティアの参加があるようですが、一定の人数を確保する算段をお聞かせください。	教員派遣紹介の部門が別にあり、そちらに教員志望の大学生が多数登録しています。関西大学生も30～40人毎年登録しており、そこから選定しボランティアを確保しています。
教室型と並行して訪問型学習支援を実施することは可能ですか。	場合によっては、講師を家庭に派遣することはできます。しかし、各家庭の事情もありますので講師を派遣するよりも教室への通所ができるように、職員が家庭訪問し子どもたちが教室に来られない問題を明確にし、解決できるよう取り組んでいます。

質問	回答
学習支援員への研修期間と頻度を教えてください。	支援開始前に1～2回、半日の研修を行います。また、年度途中にも2～3回勉強会を実施しています。他にも講師が対応に悩むことがあれば随時勉強会を開き、検討しています。
授業の流れを教えてください。	子どもたちが来所したらまずコミュニケーションを取り、状態を把握したうえで学習を開始します。休憩のタイミングはその子の状態に合わせているため、講師の判断に任せています。講師が対応できない時は、教室管理者が代わりに声掛けを行っています。
学習支援事業を実施するうえで大切にしていることは何ですか。	「承認」をベースとしたコミュニケーションです。結果が出なくても過程を認めることで、子どもたちのやる気を引き出します。また、保護者にも子どものいいところを伝えコミュニケーションを取ることで、相談しやすい関係性を作るようにしています。
学習支援事業を通して感じる吹田市の特徴は何ですか。	学校での支援が厚い点です。SSW や支援員等様々な職種の方が各現場に配置されており、子どもたちを支援する体制が手厚いと感じました。
使用教材はどのように決めていますか。	事前の学力テストと親子面談を通して、子どもの習熟度に沿ったものを選定しています。

(5) E 法人

質問	回答
学習支援員を厳選して採用しているということですが、具体的に教えてください。	先日、学習支援員を募集したところ、全国で110名、大阪で40名の応募がありました。その中から、当社の定める基準をクリアしている3割の方のみを採用し、研修を行っております。

質問	回答
<p>学習が苦手な子どもたちへの学習指導等がありますか。</p>	<p>学習支援教室に参加してもらうために、面接時に子どもの興味のあることや好きな音楽等をヒアリングしております。また、子どもの関心ごと等を学習支援教室で話題にして、子どもたちとの関係性を高めて、参加しやすい環境づくりをしております。</p>
<p>吹田市の学習支援教室の課題や魅力は何ですか。</p>	<p>吹田市は対象者をただ集めるのではなく、諸機関が連携して、課題のある子どもを検討したうえで、学習支援教室に参加させております。そこにすごくやりがいを感じております。</p>
<p>学習支援員等に企業理念をどのように伝えていきますか。</p>	<p>採用する段階で、課題のある子どもを支援していること等をお伝えしております。当社の基準をクリアしたうえで、理解いただけそうな方を厳選して採用しております。また、研修でもお伝えして、意識を高めております。</p> <p>管理する側の職員は、学習支援員等に満足度調査アンケートを実施して、内容が伝わっているかを把握しております。</p>
<p>貴社の学習支援教室にかかる課題は何ですか。</p>	<p>コロナ禍の影響で、できていなかったアウトリーチによる家庭訪問等の支援です。子ども支援員やスクールソーシャルワーカー（SSW）、諸機関との連携を高めて、子どもの参加する意欲を高めていきたいです。</p>
<p>アウトリーチによる家庭訪問は誰が実施する予定ですか。</p>	<p>まずは、吹田市の子ども支援員に協力いただきたいと思えます。他市の事例ですが、いきなり知らない職員等が家庭訪問をすることはハードルが高いため、段階を踏んで実施していきます。そのうえで、統括責任者が子ども支援員に同行して、その後、学習支援教室管理者が訪問することを検討しております。</p>

質問	回答
<p>高校進学後の高校中退を防止するためのフォロー等を検討していますか。</p>	<p>他市で実施している事例で、月に1回、相談ごと等を聞く場所を設けております。困った時に誰かに相談できる居場所づくりをしております。吹田市でも、今後実施できればと思います。</p>
<p>進路を決めるにあたり、子どもたちにチェックポイント等の助言を行っていますか。</p>	<p>成績等の学習に関わることは、学習支援教室を開催する際に相談して、伝えております。進路希望の学校見学に行くこと、担任に確認しておくこと等の助言を行っています。</p>
<p>貴社で実施しているケース支援会議では、具体的にどのようなことをしていますか。</p>	<p>学習支援員等の困っていること等に対して、当社と関わりのあるアドバイザーを招いて、課題を解決しております。参加する対象者は、個別の案件に係る、テーマに興味のある学習支援員です。</p>

6 開催結果

委員の集計結果により、各委員の合計得点が高い、株式会社キズキを吹田市生活困窮世帯の子どもの学習支援教室運営業務委託事業者プロポーザルの最優秀提案者、次に各委員の合計得点が高い事業者を次点者として決定。